(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-123778
(P2017-123778A)
(43)公開日　平成29年7月13日(2017.7.13)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
H02N 11/00	(2006.01)	H02N	11/00	Z

審査請求 有　請求項の数 23　ＯＬ　（全 8 頁）

(21)出願番号	特願2017-43523 (P2017-43523)
(22)出願日	平成29年3月8日 (2017.3.8)
(62)分割の表示	特願2013-547604 (P2013-547604)の分割
原出願日	平成23年12月27日 (2011.12.27)
(31)優先権主張番号	61/460,364
(32)優先日	平成22年12月30日 (2010.12.30)
(33)優先権主張国	米国 (US)
(31)優先権主張番号	13/336,976
(32)優先日	平成23年12月23日 (2011.12.23)
(33)優先権主張国	米国 (US)

(71)出願人　513160442
ロス，オウェン　ヴェンモア
ＲＯＳＳ，Ｏｗｅｎ　Ｖｅｎｍｏｒｅ
アメリカ合衆国　カリフォルニア州　９０２９１，ヴェニス，オゾンアヴェニュー３２
(74)代理人　110001302
特許業務法人北青山インターナショナル
(72)発明者　ロス，オウェン　ヴェンモア
アメリカ合衆国　カリフォルニア州　９０２９１，ヴェニス，オゾンアヴェニュー３２

(54)【発明の名称】陽子エンジン

(57)【要約】　（修正有）
【課題】物質をエネルギーに変換する発電装置。
【解決手段】ソレノイドが外周上を時計回りまたは反時計回りに高速で回転する。気体またはプラズマ状の帯電粒子を含む概ね同じ大きさのコイル状半導電管が逆向きに高速で回転する。中空コイルは内部に磁場を生成する導電コイルに巻かれて、粒子のスピンを整列配置させる共鳴周波数をＲＦコイルが注入する際に、粒子を所定位置に保持する。粒子は、ソレノイドの磁場内へ高速度で送られる。その結果生じたエネルギー出力が集められる。
【選択図】図１

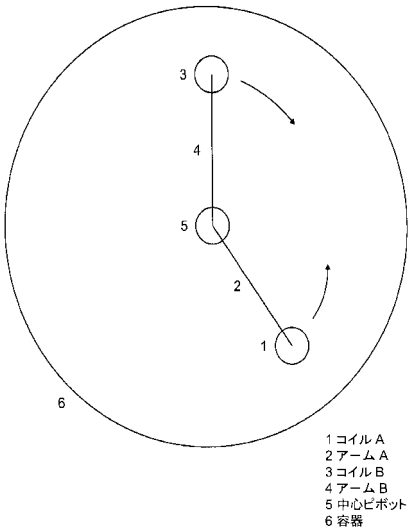


図１

【特許請求の範囲】
【請求項１】
陽子をソレノイドの磁場内に送り込むことにより核子をエネルギーに変換する発電装置であって、
中心ピボットの外周に沿って時計回りまたは反時計回りのいすれかで可変速度でスピンする第１のアームに取り付けられたソレノイドと、
前記中心ピボットの外周に沿って前記第１のアームの回転とは逆向きに可変速度でスピンする第２のアームに取り付けられていて、導電コイルおよびＲＦコイルに巻かれており陽子を含むコイル状の中空管と、
前記中空管内の陽子から解放されたエネルギーを集めるエネルギー収集および変換システムとを含むことを特徴とする発電装置。
【請求項２】
請求項１に記載の発電装置において、陽子が前記中空管に注入されて、前記管の長さに沿って巻かれた導電コイルにより生成された磁場により所定位置に保持されることを特徴とする発電装置。
【請求項３】
請求項２に記載の発電装置において、前記中空管内の磁場内の前記陽子のスピン状態が、衝突磁場との衝突の効果を最大化すべく前記管の長さに沿って巻かれたＲＦコイルにより与えられるＲＦ信号により制御されることを特徴とする発電装置。
【請求項４】
請求項２に記載の発電装置において、前記スピンしているソレノイドの磁場と衝突した際に陽子に作用する力を最大化することに関して前記中空管の範囲内の磁場がオンまたはオフにされることを特徴とする発電装置。
【請求項５】
請求項１に記載の発電装置において、前記装置が更に、前記中空管内の陽子を正確に狙うこと、および当該陽子に作用する力を最大化することに関して前記スピンしているソレノイドの磁場をオン／オフするスイッチを含むことを特徴とする発電装置。
【請求項６】
請求項１に記載の発電装置において、前記中空コイル管の内面領域が、光子を電流に変換可能な光電半導体材料であることを特徴とする発電装置。
【請求項７】
請求項１に記載の発電装置において、前記中空コイル管が、前記管の内部から生じた電流の半導体として機能することを特徴とする発電装置。
【請求項８】
請求項１に記載の発電装置において、前記中空コイル管が、前記管の内部で放出されたエネルギーの熱導体として機能することを特徴とする発電装置。
【請求項９】
請求項１に記載の発電装置において、前記エネルギー収集過程において電極としても利用可能な容器に収められていることを特徴とする発電装置。
【請求項１０】
請求項９に記載の発電装置において、前記容器がまた、作動流体として、または熱対流または伝導あるいは電気伝導に利用可能な気体または液体等の媒質を収納可能であることを特徴とする発電装置。
【請求項１１】
請求項１に記載の発電装置において、スピンしているアームの両方が、摩擦を最小化すべく磁気ベアリングで構成された中心ピボットに取り付けられていることを特徴とする発電装置。
【請求項１２】
請求項３に記載の発電装置において、タイミング制御システムが前記アームの速度を調整し、前記ソレノイドおよび前記コイル状の中空管の磁場を適当なシーケンスでオン／オ

フさせ、電流を反転させて前記ＲＦ信号の注入を同期させることができ、これら全てが前記発電装置の機構に対するエネルギー生成要求に従うことを特徴とする発電装置。
【請求項１３】
請求項１に記載の発電装置において、電解槽が前記中空管に陽子を供給することを特徴とする発電装置。
【請求項１４】
エネルギーを生成する方法であって、
陽子を中空管内の所定位置に保持するステップと、
前記中空管を所定位置に保持された陽子と共に移動させるステップと、
前記中空管内の所定位置に保持された陽子を１個以上の磁場に衝突させるステップと、
前記中空管内の所定位置に保持された陽子に前記磁場の磁力を作用させるステップと、
磁力により陽子を破壊してエネルギーを生成するステップと、
解放されたエネルギーを集めるステップとを含むことを特徴とする方法。
【請求項１５】
請求項１４に記載の発電方法において、一次磁場がループ状のソレノイド内に含まれ、陽子が前記ソレノイドを通って円形にスピンすることを特徴とする方法。
【請求項１６】
請求項１４に記載の発電方法において、前記方法がナノサイズの発電装置を提供するステップを含むことを特徴とする方法。
【請求項１７】
請求項１４に記載の発電方法において、前記方法が工業利用可能な発電装置を提供するステップを含むことを特徴とする方法。
【請求項１８】
請求項１４に記載の発電方法において、ソレノイドが外周に沿って時計回りまたは反時計回りに回転する一方、陽子を含むコイル中空管が逆向きに回転して前記陽子を前記ソレノイドの磁場に衝突させることを特徴とする方法。
【請求項１９】
請求項１４に記載の発電方法において、陽子のスピンの向きが、１個以上の静止または移動している磁場に衝突するために推進装置から発射されて、エネルギーを生成させる前記陽子の方位角で磁場に衝突するように所定位置に保持されていることを特徴とする方法。
【請求項２０】
請求項１に記載の装置を利用してエネルギーを発生させる方法であって、
請求項１に記載の装置を用いて、
陽子を中空管内の所定位置に保持し、
前記中空管を所定位置に保持された陽子と共にを移動させ、
前記中空管内の所定位置に保持された陽子を１個以上の磁場に衝突させ、
前記中空管内の所定位置に保持された陽子に前記磁場の磁力を作用させ、
磁力により陽子を破壊してエネルギー生成し、
生成されたエネルギーを集めるステップを含む方法。
【請求項２１】
陽子を磁場に送り込んで前記磁場が最大量の有効磁力で前記陽子を叩くハンマーとして機能させることにより核子をエネルギーに変換する発電装置。
【請求項２２】
請求項２１に記載の発電装置において、陽子が推進装置から１個以上の静止または移動している磁場内へ発射されることを特徴とする発電装置。
【請求項２３】
請求項２１に記載の発電装置において、一次磁場がループ状のソレノイド内に含まれ、陽子が前記ソレノイドを通って円形にスピンすることを特徴とする発電装置。
【発明の詳細な説明】

【技術分野】
【０００１】
本出願は、２０１０年１２月３０日出願の米国特許出願第６１／４６０，３６４号、および２０１１年１２月２３日出願の米国特許出願第１３／３３６，９７６号に基づいて優先権主張するものであり、その全文を援用している。
【０００２】
本発明は発電に関する。式Ｅ＝ｍｃ２は、大量のエネルギーがフェルミオン物質内に閉じ込められていることを意味する。従来の燃焼は分子の化学結合を壊すことによりエネルギーを放出する結果、不要な放出物が生じ、個々の原子核の膨大なエネルギーが利用されないまま残る。
【背景技術】
【０００３】
自由中性子は、自身が崩壊するまでの短時間（約１５分）のみ存在する。中性子は、３個のクオーク、すなわち１個の「アップクォーク」および２個の「ダウンクォーク」を含んでいる。中性子ベータ崩壊において、２個の「ダウンクォーク」のうち１個は「アップクォーク」に切り替わり、電子およびニュートリノを発する。残りの陽子には２個の「アップクォーク」および１個の「ダウンクォーク」が残される。本発明は、残りの「ダウンクォーク」、または残りの「アップクォーク」のうち１個により陽子の崩壊を誘発することによりエネルギーへの変換を図る。質量は力であり、核子の成分を正しい量の対抗力により正しい位置に戻すことにより質量を破壊してエネルギーを放出させることができる。
【発明の概要】
【０００４】
本発明の主な目的は、核子内部に貯蔵された膨大なエネルギーを解放することである。
【０００５】
一実施形態において、イオン化されたプロチウムを用いる。水素にはいくつかの同位元素があり、その最も一般的なものが１個の陽子および１個の電子からなる１Ｈ（プロチウム）である。電子を除去すれば、残るのは正に帯電した個々の陽子である。
【０００６】
本発明の一実施形態は、中心ピボットに取り付けられていて外周方向逆向きに回転する２本のアームを含んでいる。これらのアームは、可変的な速度で邪魔し合うことなく互いの内部を通過できる（例えば一方のアームが他方の内部を通過する）ように設計されている。
【０００７】
各アームの終端には共にほぼ同じ大きさのコイルが堅牢に取り付けられている。当該コイルは、自身を保持するアームと同様に、可変的な速度で邪魔されずに相互に通過できるように構成されている。
【０００８】
一方のコイル（コイルＡ）はソレノイド、すなわち電磁石である。当該コイル内を電流が流れた場合、当該コイルの中心を通る比例的な強さの下向き磁場が生じる。この磁場は、自在にスイッチオン／オフ可能である。
【０００９】
他方のコイル（コイルＢ）はコイルＡ内を通過できるように、従ってコイルＡの磁場がオンになった場合、コイルＡの磁場を通過するかまたは横断できるように大きさがコイルＡに比例している。
【００１０】
本発明の一実施形態において、コイルＢは半導体材料で構成された中空管であって、光子を電気に変換または直接電子を収集可能な管の内面に半導体層を有する。
【００１１】
一実施形態において、コイルＢには更に非磁性導体が巻かれていて、コイルＡの磁場と最小限に相互作用するが、導電時にはコイルＢの中心を通る下向き磁場も生成する。

【００１２】
一実施形態において、コイルＢにはＲＦコイルが巻かれている。磁気共鳴は、原子核のスピンに関する特性である。コイルＢが陽子で満たされていてＲＦコイルからの磁場がオンになった場合、管内の陽子のスピンは磁場に従って整列し、磁気的に北または南のいずれかを指すことにより、２個の異なるスピン状態、すなわち高エネルギースピン状態および低エネルギースピン状態を示す。適当な強さ（コイルＢの磁場の強さの関数）のＲＦ周波数を注入することにより、コイルＢ内の全ての陽子が磁場内で同一方向を向くように低エネルギースピン状態を高エネルギースピン状態に変換することができる。
【００１３】
ＲＦ周波数がオフになった場合、高エネルギースピン状態に「上昇した」陽子は光子を発することにより低エネルギースピン状態に「弛緩する」。この瞬間これらの弛緩した陽子は、コイルＡの磁場に高速度でぶつけられて、コイルＢ内に存在するこれらの陽子の一部の破壊を誘発し、これらをエネルギーに変換し、次いで当該エネルギーをコイルＢから集める。
【００１４】
代替的に、陽子がコイルＡの磁場に衝突する際に、コイルＢ内の磁場を用いて機械の大きさおよび他の変数に基づいて最適な角度に陽子を保持することができる。陽子は、コイルＡの逆磁場にぶつけられるか、または逆磁場を通って「接地」させることができる。
【００１５】
タイミング装置は、アームの回転速度を調整して、コイルＡおよびコイルＢの磁場を適当なシーケンスでオン／オフして、ＲＦ信号の注入があれば同期させることができる。
【図面の簡単な説明】
【００１６】
【図１】図１は、容器内の機構の上面断面図である。
【図２】図２は、機構の各アームおよびそれが取付けられたコイルを示す。
【図３】図３は、機構の各アームおよびそれが取付けられたコイルを示す。
【図４】図４ａは、コイルＢの側面図を示す。図４ｂは、コイルＢの断面図を示す。
【発明を実施するための形態】
【００１７】
本開示は一般に、高速度で陽子を磁場内に送り込むことにより陽子のエネルギーを解放する発電システムに関する。必要とされる高速度は、機械の大きさ、生成するエネルギーの量、および他の変数に依存して変化する。いずれの場合も、特定の装置の環境内で、粒子を破壊するのに充分な速度でなければならない。所与の装置で必要とされる正確な速度は当業者により微調整できる。
【００１８】
ローレンツ力の法則によれば、１クーロンの電荷を担持し、毎秒１メートルの速度で１テスラの磁場を通過する粒子は１ニュートンの力を受ける。粒子が磁場を通過する速度を上げることにより、粒子が受ける力は相応に増大する。
【００１９】
追加的な磁場内で陽子を所定位置に保持し、且つ当該陽子が一次磁場に衝突する角度を調整することにより、一次磁場により加えられた力を特定の箇所に集中させて質量を破壊することができる。
【００２０】
一実施形態において、粒子による光子の誘導放出が目標を与える。
【００２１】
一実施形態において、磁場との衝突は、物質／反物質消滅を再現する。
【００２２】
本開示は一般に、磁力を用いた質量の破壊による発電に関する。質量は核子の成分に固有であって、接触の局所性を制御すべく１個以上の二次磁場により所定位置に保持できる核子を目標とする磁場により生じた等しい量の反力を受けることができる。目標とされた

核子はまた、他の手段により、例えば核子物質の密度または核子物質の他の特性により、あるいは一次および他の磁場と衝突した際に「トラップ」すなわちチャネルに保持されることにより、所定位置に保持されていてよい。核子は、各々の核子に個々に充分な力を加えて自身の質量の力に対抗すべく磁力にぶつけられることにより質量を破壊して、式Ｅ＝ｍｃ２に従いそのエネルギーを放出させる。

【００２３】

図１に、本機構の一実施形態の非限定的な例を上面視で示す。中心ピボット５に２本のアーム２、４が取り付けられていて、アームＡ２の外周に沿った反時計回り高速回転を推進し、アームＢ４の外周に沿った時計回り高速回転を推進するように機能する。一実施形態において、アームＢ４は、アームＡ２内にぴったり合い、従って可変速度で抵抗なしに通過できるように設計されている。アームＡ２の終端にコイルＡ１が取り付けられていて、アームＢ４の終端にコイルＢ３が取り付けられている。コイルＢ３の形状および大きさは、従ってアームＢ４がアームＡ２を通過するのと同様にコイルＡ１内にぴったり合い、抵抗なしにコイルＡ１を通過できるように設定されている。一実施形態において、中心ピボット５は、摩擦を排除して、アームが容器６内で逆向きに３６０°外周上を高速回転可能にする磁気ベアリングである。

【００２４】

図２に、アームＡ２に取り付けられていて中心ピボット３に結合されたコイルＡ１を示す。コイルＡ１はソレノイドであって、電流がコイル内を流れたならばコイルの中心を通る下向き磁場が生じる。

【００２５】

図３に、アームＢ２に取り付けられていて中心ピボット３に結合されたコイルＢ１を示す。一実施形態において、コイルＢ１は半導体材料からなる中空管であって、管内部で生成された光子を利用すべくコイルＢ１内を流れる電気に変換できるように内面が光電式である。

【００２６】

図４に、コイルＢの２個の近接図、すなわち側面図および断面図３を示す。コイルＢの側面図は、コイルＢがＲＦコイル１および導電コイル２を巻かれた中空管である実施形態を示している。電流が導電コイル２内を流れたならば、コイルＢの中心を通る下向き磁場が生じる、一実施形態において，陽子５がコイルＢの内面４に沿って光電半導体材料に囲まれた中空管を満たす。

【００２７】

導電コイル２内に電流を流すことによりコイルＢ内の磁場がオンになったならば、管内の全ての陽子のスピンが高エネルギースピン状態または低エネルギースピン状態に整列する。適当な強さのＲＦコイル１を通ってＲＦ信号を注入することにより、低エネルギースピン状態を高エネルギースピン状態に上昇させることができる。ＲＦ信号が除去されたならば、上昇した陽子は光子を発することにより低エネルギースピン状態に弛緩する。一実施形態において、光子の放出により、コイルＢ内の陽子にぶつけるコイルＡの磁場の場所および時間目標が与えられ、コイルＢ内の磁場はオンのままであるかまたはオフにされて陽子５に掛かる力が増大する。

【００２８】

一実施形態において、エネルギー出力は、利用のためコイルＢの内面の半導電または導電材料を通って伝導される電子の形状をなしている。

【００２９】

一実施形態において、エネルギーは、コイルＢの光電内面４により集められ、利用のためアームＢを通ってコイルＢの半導体材料を通って、あるいは容器自体を電極として用いて、コイルＢとの直接的接触または容器からコイルＢを分離する媒質のいずれかを介して伝導される。他の実施形態は、コイルＢを通って容器内の周囲媒質へ伝導される熱、またはコイルＢと容器の直接的接触により伝導される熱等、他の電力変換の方法を含んでいてよい。

【００３０】
発電システムの他の実施形態は、アームの２個以上の車輪がギア状にコイルを噛み合わせる設計を含んでいてよい。別の実施形態は、磁場の全長にわたるソレノイドコイルを通過する、または「ループ状の」円形ソレノイド内に生成された磁場の周長を回る中空管要素を設計することができる。他の実施形態は、容器から直接磁気衝突磁場を生成しながら、１本のアームを１個の中空管と共に動かすことしかできない。一実施形態では中空管を保持する複数のアームが回転して単一の衝突磁場に衝突させられ、別の実施形態では１個の中空管が複数の衝突磁場に衝突させられる。一実施形態において、中空コイル管が、外周上に回転しながら可変的な速度で自身の軸回りにスピンできるように構成されている。一実施形態において、２枚のプレートが逆向き、すなわち一方のプレートが陽子と共に、他方が１個以上の磁場と共にスピンして、２枚のスピンするプレートが互いに「はさまり合う」につれて陽子を破壊する。一実施形態において、陽子は、静止または移動している１個以上の磁場に向けて銃から発射される。一実施形態において、２個以上の同心シリンダが互いに逆向きにスピンして陽子を磁場に衝突させる。

【００３１】
本開示の一実施形態において、発電装置は、中空管に陽子を供給する電解槽に接続されている。本発明の一実施形態において、電解槽は水の電気分解を実行して中空管に水素を供給する。

【００３２】
無論、本明細書の記述および図面が説明用に過ぎない点が理解され、本発明の概念および添付の請求項の範囲から逸脱することなく本明細書に開示した構造の各種の変型、組合せ、および変更が可能であることは明らかであろう。

【図１】

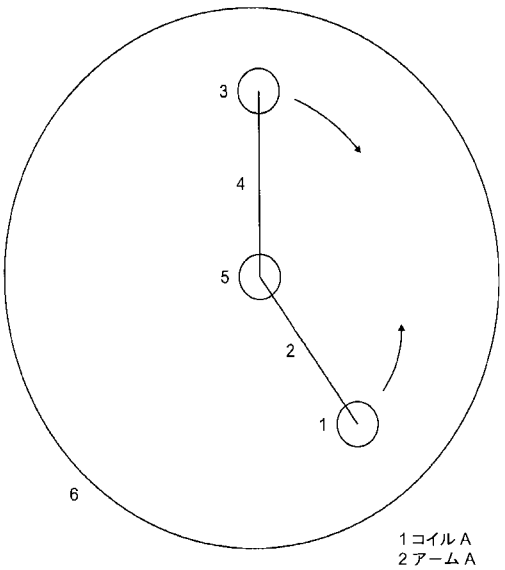


図１

【図２】

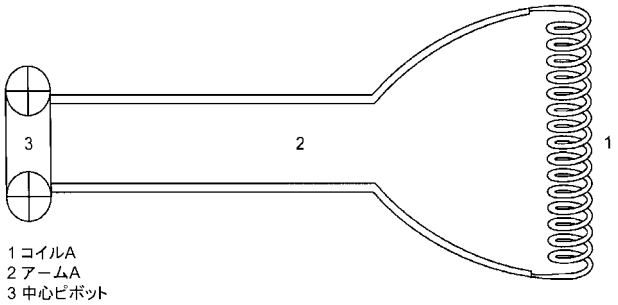
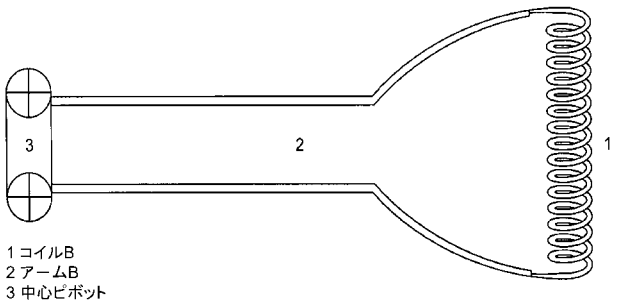


図２

【図３】



1 コイルB
2 アームB
3 中心ピボット

図 3

【図４】

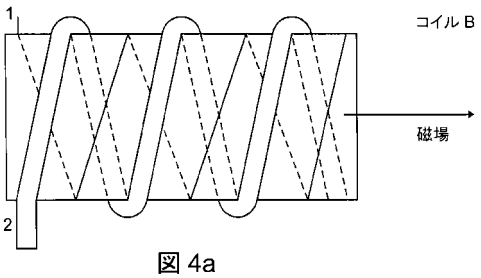
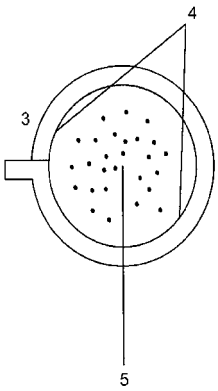


図 4a



1 RFコイル
2 導電コイル
3 コイルB、断面図
4 光電内面
5 帯電粒子

図 4b